

第3学年1組 国語科学習指導案

令和元年10月24日（木）第4校時
男子14名 女子15名 計29名
指導者 教諭 福田裕臣

1 単元名・教材名

どちらの主張が納得できる？～文章を批判的に読み比べ、より納得感のある文章を選ぼう～
「作られた『物語』を超えて」（山極寿一） 光村図書3年
「人間の偏見 動物の言い分」（高槻成紀） イースト・プレス 2018, 5, 29

2 生徒の実態と本単元の意図

（1）本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項（読むこと）】	学習内容	単元・教材名 〈実施時期〉	学習活動と関連する他 領域等の指導
・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。 【2年ウ】	・筆者の論の展開と主張 ・筆者の主張を読み取り、自分の考えをもつ	「モアイは語る―地球の未来」〈2年9月〉	【書くこと】 ○レポート ・主張と根拠の関係
・文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。 【3年イ】	・図との対応に注意する ・小見出しと構成	「月の起源を探る」〈3年6月〉	

（2）生徒の実態と本単元の意図

生徒は「モアイは語る―地球の未来」や「月の起源を探る」等を通して、筆者の主張に対する論理の展開を読み取る学習を行ってきた。また、「月の起源を探る」では、自分の関心事についてのレポートを作る主体的な学習を通して、図表と論理の展開の関係を学んだ。生徒は、自分の関心事に興味や関心をもち、意欲的にレポートに取り組むなど、言語活動に積極的に取り組む傾向がある。また、生徒同士で対話することによって多様な考えを獲得することにも実感をもった取組を行うことが多い。他方で、他者の発言や文章の内容を検討することなく取り入れることが多く、批判的に考えたり、根拠の妥当性を検討したりすることが苦手な生徒が多くいる。そこで、詩の学習では、「3年間で読んだ教科書の詩を批評する」といった、分析的・批判的な読みを獲得するための授業を意図的に展開してきた。

本教材は、「物語」というキーワードを軸に、ゴリラの実例から、人間の文化や社会全体の事例に発展させ、最後に自らの主張をまとめている。筆者の考えを表す語句や論理展開に着目させることで、主張をとらえ、さらに多様な読みへと思考が深まる文章である。よって、本単元では筆者の主張に至る論理展開を正確に読み取る能力を育て、批判的に読むことで筆者の主張と自分の考えの違いや共通点を見いだす力を付けさせたい。それは、今日の高度情報化社会に生きる生徒に必要な生きる力であろう。

本単元では、言語活動例イ「論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと」を踏まえて、書き手が主張している内容が似た2つの論説文を比較し、「どちらの主張が納得できる？」という活動を設定した。書き手の論理の構成を把握させるために、「三角ロジック」を提示し、「主張」を補う「事実」と「理由付け」から文章を分析することによって、論証の内容や強度、立場や特性で異なる切り口があることを比べる。「三角ロジック」は、「トウルミン・モデル」の議論の主役である主張（Claim）、根拠（Data）、論拠（Warrant）を抜粋したものはあるが、論理の展開を可視化し、批判的な読みの視点を明確にするためのツールとして使用することとする。

3 単元目標

- ・文章を読み，身近な社会との在り方と結び付けて考えようとしている。【関心・意欲・態度】
- ・筆者の主張を支える論理の展開の仕方を捉え，内容の理解に役立てることができる。【読むこと イ】
- ・二つの文章の論理展開を批判的に読み，表現の仕方について評価することができる。【読むこと ウ】
- ・抽象的な語句の意味を文脈を基に推測して理解することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 2年イ（イ）】

4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・文章を読み，身近な社会との在り方と結び付けて考えようとしている。	・筆者の主張を支える論理の展開の仕方をとらえ，内容の理解に役立てている。（イ） ・二つの文章の論理展開を批判的に読み，表現の仕方について評価している。（ウ）	・抽象的な語句の意味を文脈を基に推測して理解している。
学習における具体的評価規準	①自分の身近な社会や体験したことに関連付けた感想を書こうとしている。 ②筆者の主張を自分たちの生活に近付けて考えようとしている。	①「三角ロジック」を用いて筆者の主張を把握している。 ②「主張」「事実」「理由付け」により文章を分析し，筆者の主張につながる「根拠」の確かさをとらえている。 ③2つの文章の論理を読み比べ，根拠や考えの道筋について自分の考えをもっている。	①論理の展開を思考ツールによる可視化を基に理解している。

5 指導と評価の計画（全7時間）

時	学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	本時の目標：三角ロジックを使って、論理について理解しよう。		アの① 観察 ノート
	○単元の課題を知り，学習の見通しをもつ。 ○「作られた「物語」を超えて」の範読を聞き，感想を記入する。	○文章内容の理解 ○筆者が述べる内容への感想のもち方	
2	本時の目標：三角ロジックを使って、論理について理解しよう。		エの① オの① 話合いの観察 ワークシート
	○三角ロジックについて知る。 ・「食べに行きたいラーメン屋」 ○三角ロジックを使ってみる。 ・「靴のセールスマン」	○主張と根拠の関係 ○「主張」「事実」「理由付け」の三要素 ○主張と理由付けの関係	

3・4	本時の目標：三角ロジックを使って、筆者の論証の強さを評価しよう。		エ② 机間指導 ワークシート
	○文章全体における筆者の主張をとらえる。 ○事実や理由付けに反論する。	○筆者の論理の展開 ○主張、事実、理由付けの関係 ○根拠の確かさ	
5 (本時)	本時の目標：2つの文章の内容について、自分の考えを述べよう。		エ③ 机間指導 ワークシート 話合いの観察
	○二つの文章の分析を比較し、より納得のいく方を、事実と理由付けの内容から評価する。 ○クラス全体で、反論や意見を活用した討論を行う。	○論証の評価 ○批判的な文章読解 ○他者との対話	
6	本時の目標：筆者の主張に対して、自分の考えを書こう。		エ③ 机間指導・ノート
	○筆者の主張に対する意見文を書く。	○身近な社会との関連	

6 本時の学習指導（本時 5／6時）

（1）目標

- ・2つの文章の論理を読み比べ、根拠や考えの道筋について評価し、自分の考えをもつことができる。
- 【読むこと ウ】

（2）展開

	学習課題	学習内容	●指導と評価の創意工夫
導入	1 前時までの振り返りを行う。 【全体】	○本文と資料の論理展開の分析 ○筆者の論証に対する評価	●特定のワークシートを提示し、論理の展開の捉え方について振り返る。 ●「本時の課題」を提示することで、生徒が到達すべき基準を明確にする。
	2 本時の学習の目標を知る。 【全体】 【本時の目標】 ○2つの文章の内容を比較して、自分の考えを述べよう。 ～主張を説明するための、根拠を明確にして～		
展開	3 二つの文章の分析を比較する。 【個人】	【作られた「物語」を超えて】 ゴリラはコミュニケーション手段であるドラミングを戦いの宣言と誤解されたことで、ハンターの標的とされて命を落とした。また、野生のゴリラは動物園に送られた。平和な姿が紹介されたのは、最近のこと。 誤解は人間の印象を基に伝えたがる性質から生まれるのだろう。人間は言葉を使い体験したことを共有することができる一方、体験を脚色したり誇張したりする力もあり、最初の話が誤解によって作られると社会の常識になってしまう。こうした誤解は人間社会に悲劇をもたらす。言葉や文化が違う民族間では誤解が修復されず敵対意識を増幅しかねない。どちらの側にも、反対側に立って自分たちを眺めることをしない。 「物語」の真実を知るためには、その人々が暮らしている文化や社会をよく理解することが必要であろう。	

		【人間の偏見 動物の言い分】 パンダの調査において、パンダは「野生動物」であるといえる。また、人とチンパンジーのDNAは98%同じであり、考えたり道具を使ったりする動物はいくらでもいる。 人間は特別な存在ではなく、いつのころか思い違いをしてしまった。むしろ、私たち人間は客観的に見るのが苦手なのではないだろうか。20世紀の前半までは人間中心で問題なかったが、いまや人口が70億人を超え、エネルギー利用が多すぎるといえる。そのため、資源の枯渇や地球温暖化が問題となっている。人間が「豊かな生活」を追い求めると、自然は深刻な事態に陥る。 動物を正しく知ることが、思い違いを是正することになるはずだ。	
展開	4 事実や理由付けの内容から、より納得感のある文章を選ぶ。 【個人】 5 クラス全体で、反論や意見を活用した討論を行う。 【全体】	○論理を明確にした批判的な分析 ○三角ロジックを用いた主張と根拠 ○自分の主張に根拠をもたせた発表 ○相手の意見を批判的に聞く	
	評価場面 〈学習活動に即した評価規準〉 エの③ 〈評価方法〉 ・机間指導、ワークシートの観察 ・発言の様子や態度の観察 ・発表内容の考察 〈B評価の姿〉 ・文章の内容を比較し、どちらが主張を強く導く事実や理由付けになっているか考え、まとめの文章を根拠に自分の考えをまとめている。 (自分の主張だけを言う生徒) ・まとめの文章から言葉を引用して、どう読んだのかが分かるように発言させる。		
まとめ	6 本時の振り返りをする。 【個人】	振り返りに使いたい語彙 ・たとえば ・なぜなら ・したがって ・そもそも ・すなわち ・批判的 ・論理 ・主張 ・根拠 ・事実 ・理由付け ・考え方	

